

内閣府委託調査

# ICT を活用した社会的インパクト評価 ツールに関する先行事例調査 最終報告書

平成30年3月30日

ケイスリー株式会社

## 免責事項

本調査報告書は、ICT を活用した社会的インパクト評価を行うためのソフトウェア等のツール（以下、「ICT ツール」という。）に関する参考情報の提供を唯一の目的として作成されたもので、ICT ツールの選定や推奨を目的としたものではありません。ICT ツールの選定は、読者各自の判断でなされるようお願いいたします。また、本調査報告書にある情報をいかなる目的で使用される場合におきましても、読者各自の判断と責任において使用されるものであり、本調査報告書にある情報の使用による結果について、内閣府は何ら責任を負うものではありませんのでご了承ください。

# 目次

用語集.....	2
第1章 調査概要.....	5
1.1. 調査の目的と背景.....	5
1.2. 調査の進め方.....	5
1.3. 作業概要と実施体制.....	6
第2章 調査の結果.....	8
2.1. 調査対象分野の明確化.....	8
2.2. ウェブページ等による ICT ツールの洗い出し.....	8
2.3. 調査対象とする ICT ツールのサンプル抽出.....	10
2.3.1. ICT ツール抽出の観点の設定.....	10
2.3.2. ICT ツールのサンプル抽出.....	10
2.4. ウェブページ等による情報収集.....	11
2.4.1. ICT ツールの調査項目の決定.....	11
2.4.2. ウェブページ等による情報収集.....	12
2.5. ヒアリング調査.....	57
2.6. 課題の特定及び解決策の提示.....	62

## 用語集

No.	用語	説明
1	API	Application Program Interface の略。OS やミドルウェア向けのソフトウェアを開発する際に使用できる命令や関数。また、それらを利用するためのプログラム上の仕様やインターフェース。 (総務省「ICT用語集」(平成30年3月30日閲覧)より。 <a href="http://www.soumu.go.jp/soutsu/tokai/tool/yougo/yougo.html">http://www.soumu.go.jp/soutsu/tokai/tool/yougo/yougo.html</a> )
2	CBA	Cost Benefit Analysis (費用便益分析) の略。費用便益分析とは、変更を行うか否かを決定する技法。その名称が示すとおり、検討している行動から得られる全ての便益の価値とこれに伴う費用を比較する。 (e-stat「日英統計用語集」(平成30年3月30日閲覧)より。 <a href="https://www.e-stat.go.jp/classifications/terms/90/00/3947">https://www.e-stat.go.jp/classifications/terms/90/00/3947</a> )
3	GRI	Global Reporting Initiative の略で、サステナビリティレポートのガイドラインを提供する国際的な組織。
4	GVA	Gross Value Added (粗付加価値) の略で、地域、業界、または経済部門で生産される商品とサービスの価値の尺度。減価償却費を含めて、積上法で計算した付加価値。 (グロービス経営大学院ウェブサイト(平成30年3月30日閲覧)より。 <a href="https://mba.globis.ac.jp/about_mba/glossary/detail-12366.html">https://mba.globis.ac.jp/about_mba/glossary/detail-12366.html</a> )
5	GVE	Global Value Exchange の略。
6	G8 社会的 インパクト投資 タスクフォース	2013年6月に、先進国首脳会議(サミット)で、サミット議長国の英国・キャメロン首相の呼びかけのもと、社会的インパクト投資をグローバルに推進することを目的として創設された国際的なイニシアチブ。2015年8月より The Global Social Impact Investment Steering Group (GSG) に名称変更。
7	ICT	Information & Communications Technology の略。情報通信技術。 (総務省ウェブサイト「ICT用語集」(平成30年3月30日閲覧)より。 <a href="http://www.soumu.go.jp/soutsu/tokai/tool/yougo/yougo.html">http://www.soumu.go.jp/soutsu/tokai/tool/yougo/yougo.html</a> )
8	IRIS	Impact Reporting and Investment Standards の略で、Global Impact Investing Network という非営利団体によるイニシアチブであり、社会・環境・経済的な成果を図る上での指標群を提供。
9	LM3	Local Multiplier 3 の略で、英国ニュー・エコノミクス財団によって、地域の経済的影響を測定する簡単で分かりやすい方法として開発された手法。現地の資金の流れ、組織が現地の経済への影響を実質的に改善する方法、公共部門が調達決定の影響を考慮する方法に関して設計されている。 (英国・ニュー・エコノミクス財団ウェブサイト(平成30年3月30日閲覧)より。 <a href="https://www.nefconsulting.com/our-services/evaluation-impact-assessment/local-multiplier-3/">https://www.nefconsulting.com/our-services/evaluation-impact-assessment/local-multiplier-3/</a> )
10	PFS	Pay for Success の略。社会的又は環境的な成果が達成された時に支払が行われる成果連動型の調達手法のこと。 (米国ホワイトハウスウェブサイトより(平成30年3月30日閲覧)。 <a href="https://obamawhitehouse.archives.gov/administration/eop/sicp/initiatives/pay-for-success">https://obamawhitehouse.archives.gov/administration/eop/sicp/initiatives/pay-for-success</a> )

No.	用語	説明
11	SCBA	Social Costs Benefit Analysis の略。経済的な費用便益分析を社会的及び環境的インパクトまで含めて拡張したもの。 (英国・ニュー・エコノミクス財団ウェブサイトより (平成 30 年 3 月 30 日閲覧)。 <a href="https://www.nefconsulting.com/our-services/evaluation-impact-assessment/social-environmental-cost-benefit-analysis-scba/">https://www.nefconsulting.com/our-services/evaluation-impact-assessment/social-environmental-cost-benefit-analysis-scba/</a> )
12	SDGs	Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標) の略。2001 年に策定されたミレニアム開発目標 (MDGs) の後継として、2015 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて記載された 2016 年から 2030 年までの国際目標。 (外務省ウェブサイト (平成 30 年 3 月 30 日閲覧) より。 <a href="http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/about/doukou/page23_000779.html">http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/about/doukou/page23_000779.html</a> )
13	SIB	Social Impact Bonds の略。官民連携手法の一つであり、社会課題解決型の事業を実施し、その事業成果 (社会的コストの効率化部分) を支払の原資とするもの。 (経済産業省ウェブサイト 「ヘルスケア分野におけるソーシャルインパクトボンドの導入可能性について」 (平成 30 年 3 月 30 日閲覧) より。 <a href="http://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/shoujo/jisedai_healthcare/kenkou_toushi_wg/pdf/010_s01_00.pdf">http://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/shoujo/jisedai_healthcare/kenkou_toushi_wg/pdf/010_s01_00.pdf</a> )
14	SIF	Strategic Impact Framework の略で、ロジックモデルのように、インプット～アウトカムまでを (標準化された) 指標を基に測定可能となる枠組み。 (Sinzer ウェブサイト (平成 30 年 3 月 30 日閲覧) より。 <a href="https://sinzer.zendesk.com/hc/en-us/categories/200890069-Strategic-Impact-Framework-SIF-">https://sinzer.zendesk.com/hc/en-us/categories/200890069-Strategic-Impact-Framework-SIF-</a> )
15	SIFIs	Social Investment Financial Intermediaries (社会的金融中間支援団体) の略。社会的事業や組織に対して投資を中心とする支援を行う組織。 (Big Society Capital ウェブサイト (平成 30 年 3 月 30 日閲覧) より。 <a href="https://www.bigsocietycapital.com/glossary">https://www.bigsocietycapital.com/glossary</a> )
16	SROI	Social Return on Investment (社会的投資収益率) の略で、事業への投資価値を、金銭的価値だけでなく、社会・環境・経済面の費用と様々な活動による社会的インパクトを評価し、より広い価値の概念に基づき、評価や検証を行うためのフレームワーク。 (The SROI Network Japan ウェブサイト (平成 30 年 3 月 30 日閲覧) より。 <a href="http://www.sroi-japan.org/sroi%E3%81%AE%E6%A6%82%E8%A6%81/">http://www.sroi-japan.org/sroi%E3%81%AE%E6%A6%82%E8%A6%81/</a> )
17	SVA	Social Ventures Australia の略。
18	ウェブセミナー	動画を使ったセミナーをインターネット上で実施すること。
19	休眠預金等活用法	民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律 (平成 28 年法律第 101 号)。
20	クラウドサービス	従来は利用者が手元のコンピュータで利用していたデータやソフトウェアを、ネットワーク経由で、サービスとして利用者に提供するもの。 (総務省ウェブサイト (平成 30 年 3 月 30 日閲覧) より。 <a href="http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/security/basic/service/13.html">http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/security/basic/service/13.html</a> )

No.	用語	説明
21	社会的インパクト	短期、長期の変化を含め、当該事業や活動の結果として生じた社会的、環境的なアウトカム。 (内閣府「社会的インパクト評価の推進に向けて－社会的課題解決に向けた社会的インパクト評価の基本的概念と今後の対応策について」(平成28年3月)より。)
22	社会的インパクト投資	教育や福祉などの社会的な課題の解決を図ると共に、経済的な利益を追求する投資行動。 (G8インパクト投資タスクフォース日本国内諮問委員会ウェブサイト(平成30年3月30日閲覧)より。 <a href="http://impactinvestment.jp/impactinvestment/">http://impactinvestment.jp/impactinvestment/</a> )
23	社会的インパクト評価	社会的インパクトを定量的・定性的に把握し、当該事業や活動について価値判断を加えること。 (内閣府「社会的インパクト評価の推進に向けて－社会的課題解決に向けた社会的インパクト評価の基本的概念と今後の対応策について」(平成28年3月)より。)
24	社会的インパクト評価 イニシアチブ	2016年6月に設立された、民間事業者、シンクタンク、中間支援組織、資金提供側、研究者、行政など多様な分野が連携して日本全体として社会的インパクト評価を普及させるための具体的なアクションを行うプラットフォーム。
25	社会的インパクト マネジメント	人や社会にもたらされる変化のうち、どの変化が重要かを明らかにし、負の変化を抑え、正の変化を最大化させようとするプロセス。 (Impact Management Project ウェブサイト(平成30年3月30日閲覧)より。 <a href="http://www.impactmanagementproject.com/">http://www.impactmanagementproject.com/</a> )
26	セオリー・オブ・ チェンジ	事業を通じて解決すべき課題や問題について、その課題や問題が引き起こされている構造・原因と、それを解決するための変化の法則を図示化したもの。 (内閣府「社会的インパクト評価に関する調査研究」(平成28年3月)より。)
27	ダッシュボード	複数の情報を集約して表示する管理画面。
28	デューデリジェンス	適正評価手続き。投資家が投資をおこなう際や金融機関が引受業務をおこなう際、投資対象の実体やリスクを適正に把握するために事前におこなう多面的な調査。 (グロービス経営大学院ウェブサイト「デューデリジェンス」(平成30年3月30日閲覧)より。 <a href="https://mba.globis.ac.jp/about_mba/glossary/detail-11886.html">https://mba.globis.ac.jp/about_mba/glossary/detail-11886.html</a> )
29	ピアラーニング	さまざまな分野で耳にするようになってきた「協働」という理念に基づく学習活動方法。(池田玲子・館岡洋子「ピアラーニング入門」より。)
30	ブロックチェーン	電子署名とハッシュポイントを使用し改竄検出が容易なデータ構造を持ち、且つ、当該データをネットワーク上に分散する多数のノードに保持させることで、高可用性及びデータ同一性等を実現する技術。 (日本ブロックチェーン協会ウェブサイトより。 <a href="http://jba-web.jp/archives/2011003blockchain_definition">http://jba-web.jp/archives/2011003blockchain_definition</a> )
31	ロジックモデル	「もし～ならば、こうなるだろう」という仮説のもと、資源(インプット)と活動(アウトプット)、成果(アウトカム)を繋ぎ合わせ、事業が成果を上げるために必要な要素を体系的に図示化したもの。 (内閣府「社会的インパクト評価に関する調査研究」(平成28年3月)より。)